

岡山市東区金岡西町の株式会社大和鉄工所をお訪ねしました。大和鉄工所は1949年に農機具の部品メーカーとして創業。現在は河川の水位を調節する水門や除塵機、防水扉などの設計・製作・施工の専門メーカーとして岡山県内外で事業展開するとともに、コーヒー豆を煎る焙煎機開発にも力を入れています。代表取締役の安井久（やすいひさし）さんに会社での取り組みを伺いました。



代表取締役 安井久さん



額に掲げられた環境方針

■ ISO認証の取得

「河川での仕事ということもあって常に環境に優しい企業活動に努めてきました。14001部門を取得することで社内はもちろん、社会全体の環境負荷低減に大きく貢献できるのではないかと考え、2011年に取得。ステンレス材を溶接した後の酸洗いでは中和処理する装置を早くから取り付けるなど、取得以前から環境保全に配慮した取り組みを行っており、取得のために大きな改善を図る必要はありませんでしたが、それでも順守すべき法について学んだりする中で社員の環境に対する意識も自然と変わってきました。」



ステンレス鋼製ローラゲート

■ 環境配慮の取り組み

環境配慮の推進は総務人事課課長補佐の石黒保幸（いしぐるやすゆき）さんが中心となっています。「契約電力の低減ならびに超過防止によるコスト削減、省エネにつながる取り組みとして、5年ほど前に中国電気保安協会の『デマンド監視装置』を設置しました。目標値を超えるとアラームで知らせてくれるので、電気の使用状況が把握しやすくなり、工場設備の修理や更新を検討する際にも役に立ちます。以前は、使用量などの数値が事後に分かるものでしたが、今はリアルタイムで表示されるものに取り替え、使用状況が瞬時に目に見えて分かる環境になったことで、即時、的確な対応ができるようになりました。工場の電力はなかなか抑えることはできませんが、事務所の不要な電気やエアコンを消すなど、社員の省エネ・コスト削減に対する意識もいっそう高まりました。」



石黒保幸さん

業務内容に関しても環境を意識した改革を行っており、「加工しやすい製品設計ができるよう、設計面でも工夫しています。作りやすくすることで、余分なエネルギーを使わずに済み、効率アップで残業も減る（その分、電気や空調を使わなくて済む）など省エネにつながります。」

このほか、茶殻やコーヒーのかすを堆肥として再利用するなど、いろいろな面で環境を意識した取り組みを行っています。



コーヒーの焙煎機

■ 企業の社会的責任

安全意識を高く掲げ、安全教育を徹底することも、企業の社会的責任だと言います。河川にかかわる仕事のため、万一の油漏れなどを想定し、中和剤や吸着マットなどを分かりやすい場所に配置。「朝のミーティングをはじめ、工場でも現場でもその日の作業で起こりうる危険を考え、再確認するようにしています。」

かけがえのない水資源を有効活用するため、積極的に水辺の清掃活動にも取り組んでおり、「吉井川一斉清掃には毎年参加しています。地域の小中学校の門扉やテントが壊れた時にも無償で修理を引き受けるなど、地域のためにできることがあれば貢献したいですね。」と、お話をいただきました。

長年の水門製作で培った技術やノウハウを生かし、2001年からコーヒー焙煎機の開発にも力を入れています。現在、全国の自家焙煎店で約100台が稼働。取材時、その焙煎機で煎ったコーヒー豆で淹れてくださったコーヒーをいただきました。とても上質な味わいで、この一杯に時代の先を見据える企業の熱き思いが深く込められているように感じました。

(市民環境記者 内田)